

# 国際化ドメイン名の動向と ICANN

「ICANN報告会」  
(2001年 10月23日)

富士通ワシントン事務所長  
ICANN国際化ドメイン名委員会委員長  
米国弁護士

加藤 幹之

© Masanobu Katoh, 2001

# ドメイン名に関する ICANNの法的課題

- サイバースクワッティング
- 著名商標の決定と取り扱い
- 紛争解決手続き
- 新TLD, ccTLD契約の交渉
- 国際化(多言語)ドメイン名
- 登録順かサンライズ(優先登録)か

# 国際化ドメイン名(IDNs)の問題 (1)

- 世界にはLatin文字を使用しない人が多い
- 国際化ドメイン名によりインターネットの利用拡大
- 既に中国語、アラビア語等、多くの言語で登録が始まっている
- 技術基準が定まっていないので、インターネット分断の危険性あり

## IDNsの問題(2)

- ベリサインの試験登録(2000年11月から)ー  
現在は、Unicordで規定される全ての言語
- ccTLDーJPRSは、2月から先行登録開始
- 「.中国」のような、ccTLDタイプのTLD
- 「.公司」のような、gTLDタイプのTLD
- 後の2つ(TLD)はICANNでは認められていない

# 理事会のIDN作業部会

- 設立：メルボルン総会：決議1.39
- メンバー：Auerbach, Campos, Cerf, Katoh (委員長)
- 活動目的：  
<http://www.icann.Org/committees/idn>

# IDN 作業部会の活動(1)

- 会議参加:

MINC (メルボルン, 2001年3月14日)

AINC (アンマン, 4月1日)

ChinaInet2001 (北京, 7月11日)

経団連-JPNIC ワークショップ (東京7月13日)

- 質問状: [www.icann.org/committees/idn/survey-30apr01.htm](http://www.icann.org/committees/idn/survey-30apr01.htm)

技術的問題 (調査票A)

政策的問題 (調査票B)

現在のサービス (調査票C)

# IDN 作業部会の活動(2)

- スtockホルム総会：予備的報告書発表(6月)：

<http://www.icann.org/committees/idn/status-report-05jul01.htm>

- 追加質問状：

<http://www.icann.org/committees/idn/follow-up-survey-05jul01.htm>

- モンテビデオ総会：最終報告書発表(9月9日)

<http://www.icann.org/committees/idn/final-report-28aug01.htm>

# A: 技術的問題

## IDNの2つの基本的なアプローチ

### – サーバー側でのアプローチ

BG, BIG5, DJIS等の言語毎に限定的なエンコードや、UTF-8(Unicode transformation format)をそのまま送信する方法。サーバーの変更や、ドメイン名システムそのものの設計変更が必要になる可能性あり。

### – クライアント側でのアプローチ

ユーザーのコンピュータで ASC II compatible encoding (ACE) に変換した後、サーバーに送信する方法。



# サーバー側でのアプローチ

長所:                   • クライアント側での対応不要。

短所:                   • 実現に時間がかかる。  
                          • 技術の統一ができない場合、  
                          代替ルートを作る事になってしまう。  
                          • その結果、複数の同ドメイン  
                          名が存在しうることとなる。

# クライアント側でのアプローチ

長所:           • サーバー側の修正が不要な為, 実現は早い。

短所:           • ユーザーの側でソフトをアップグレードする必要がある。  
                  • 各国語をUnicodeに変換した上で, ASCIIに変換するのは難しい。  
                  • ドメイン名の長さが限定される。

# 標準化が未定

- IETFは技術標準決定の為に努力中。
- 理想的な解決は困難---誰が負担を負うことになるか？
  - システム管理者や運用者
  - エンドユーザー
  - 技術開発者
- IDNA (Internationalized Domain Names in Application) --- クライアント側のアプローチ

# もし技術標準が決まれば

- すべての回答者は、IETFの標準を採用すると回答。
- 標準を実際に適用するスピードは、どの技術アプローチを取るかによって違って来る。
- 標準技術は必ずしもすべてのアプローチと相互互換性があるものにはならないだろう。

# “Test Beds” は問題か？

**No:**      •重要な経験を積むことができる

**Yes:**      •ユーザーが混乱する  
              •特定の技術標準を採用させる為に  
              利用する疑いがある  
              •「代替的ルート」を構成する危険が  
              ある

# より大きな問題

- 短期的な解決か？ 長期的な解決か？
- ドメイン名システムとは何か？  
Identifierか？ Identityか？

## B: 政策的問題

- IDNには、好意的意見が多い
- 非英語圏でのインターネットの利用を促進
- しかし、サイバースクワッシングの危険も増加する

# サイバースクワッティング

- ドメイン名の登録につきものであり、完全に避けることは無理
- 紛争解決ポリシーや優先登録制度、WHOISデータベースの整備が重要な解決手段



# Top Level IDNs

- Top Level（第一レベル）の国際化ドメイン名への期待は大きい
- ICANNは、関係者間の利害をどう調整するかが重要な問題

# C: 現在のサービス状況

- 何社かは無料で国際化ドメイン名を登録している。その他は、現在のASCIIのドメイン名と同じく有料で登録
- [IDN].[IDN]
- [IDN].gTLD 例、「. 公司」
- [IDN].ccTLD 例、「. 中国」

# 現在の登録状況

- 百万よりはるかに多い登録あり(ベリサイン社だけで最初の5ヶ月で92万)
- すでに「運用(live)」しているものもある
- クライアント側のアプローチとサーバー側のアプローチの両方あり

# なぜレジストリやレジストラはIDNの登録を行うのか？

- 大きな需要が見込まれる
- 他社が登録することへの防衛のため

# ユーザーはなぜIDNを登録するのか？

- 各国語が使えるれば便利
- サイバースクワッティングの為に誰かが登録するのを防衛する為

# 新たなIDN委員会

- 9月10日のモンテビデオ総会で理事会決議
- 新たなIDN委員会の創設
- 理事会の作業部会で特定されたことや、その他の国際化ドメイン名に関する政策問題に関する調整組織
- ボトムアップのプロセス

# IDN委員会の構成

- 委員長： Masanobu Katoh
- ICANNのStuart Lynn社長が委員長と相談して委員会のメンバーを提案： 理事会決議で承認する
- メンバーは広く、理事、支援組織、政府諮問委員会、その他専門家から選出する

# IDN委員会へのインプットと作業手順

- 委員会への専門家からのインプット
  - 諸外国からのボランティア参加、非英語圏の言語学専門家等
- 作業手順、スケジュールと予算案を11月の口ス総会に提出して、理事会の承認を得る予定



**Thank you very much.**

---

加藤 幹之

[mkatoh@mkatoh.net](mailto:mkatoh@mkatoh.net)